

横 浜 市 教 育 委 員 会
定例会会議録

- 1 日 時 令和7年6月20日（金）午前10時00分
- 2 場 所 市庁舎 18階共用会議室（みなと6・7）
- 3 出 席 者 下田教育長 植木委員 森委員 泉委員 綿引委員 緒方委員
- 4 欠 席 者 なし
- 5 議事日程 別紙のとおり
- 6 議事次第 別紙のとおり

教 育 委 員 会 定 例 会 議 事 日 程

令和7年6月20日（金）午前10時00分

- 1 会議録の承認
- 2 一般報告
GREEN×EXPO 2027 子ども参画プログラムの開催について
横浜国立大学との連携協定締結式の開催について
- 3 請願等審査
受理番号4 教育委員会会議の採決に関する要望書
- 4 審議案件
教委第8号議案 横浜市国際学生会館指定管理者選定評価委員会委員の任命について
教委第9号議案 横浜市学校規模適正化等検討委員会委員の任命について
教委第10号議案 教職員の人事について
- 5 その他

[開会時刻：午前10時00分]

下田教育長

ただいまから、令和7年6月20日教育委員会定例会を開会いたします。
初めに、会議録の承認を行います。5月9日の会議録の署名者は森委員と綿引委員です。会議録につきましては、既にお手元に送付してございますが、字句の訂正を除き、承認してよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

下田教育長

それでは、承認いたします。字句の訂正がございましたら、後ほど事務局までお伝えください。

なお、5月22日の教育委員会臨時会の会議録につきましては、準備中のため、次回以降に承認することといたします。

次に、議事日程に従い、教育次長から一般報告を行います。

石川教育次長

【一般報告】

1 市会関係

- 5/23 本会議（第2日）議案上程・質疑・付託
- 5/28 本会議（第3日）一般質問
- 6/2 こども青少年・教育委員会（教育委員会関係）
- 6/5 本会議（第4日）議案議決

教育次長の石川です。それでは、報告いたします。

まず、市会関係ですが、5月23日に本会議2日目が開催され、議案上程・質疑・付託が行われました。

5月28日には、本会議3日目が開催され、一般質問が行われました。

6月2日には、市会常任委員会である、こども青少年・教育委員会が開催されました。

6月5日には、本会議4日目が開催され、議案議決が行われました。

2 市教委関係

(1) 主な会議等

- 5/29 GREEN×EXPO 2027 子ども参画プログラム
- 6/2 令和7年度横浜開港記念式典
- 6/5 令和7年度第1回指定都市教育委員会協議会
- 6/6 横浜国立大学との連携協定締結式
- 6/16 2025年度 横浜市PTA連絡協議会総会

(2) 報告事項

- GREEN×EXPO 2027 子ども参画プログラムの開催について
- 横浜国立大学との連携協定締結式の開催について

次に、教育委員会関係の主な会議等ですが、5月29日に、GREEN×EXPO 2027 子ども参画プログラムが市庁舎31階レセプションルームで行われ、下田教育長が出席されました。

6月2日には、令和7年度横浜開港記念式典が横浜みなとみらいホールで開催

され、植木委員、緒方委員が出席されました。

6月5日には、令和7年度第1回指定都市教育委員会協議会が京都府京都市で開催され、植木委員がオンラインで出席されました。

6月6日に、横浜国立大学との連携協定締結式が横浜国立大学教育文化ホールで行われ、下田教育長、泉委員が出席、挨拶され、緒方委員が出席されました。

6月16日に、2025年度 横浜市PTA連絡協議会総会が関内ホールで行われ、下田教育長が出席されました。

次に、報告事項として、この後、所管課から2点報告いたします。まず、1点目ですが、「GREEN×EXPO 2027 子ども参画プログラムの開催について」、2点目は「横浜国立大学との連携協定締結式の開催について」、報告いたします。

私からの報告は以上です。

下田教育長

報告が終了いたしました。御質問等ございますか。よろしいですか。

ほかに御意見がなければ、「GREEN×EXPO 2027 子ども参画プログラムの開催について」、所管課から御報告いたします。

山本学校教育
部担当部長

学校教育部担当部長の山本でございます。「GREEN×EXPO 2027 子ども参画プログラムの開催について」、御報告いたします。詳細は学校経営支援課グローバルデザイン担当課長から御報告いたします。

多賀谷学校経営
支援課グロー
バルデザイ
ン担当課長

学校経営支援課グローバルデザイン担当課長の多賀谷です。よろしくお願いいたします。令和7年5月29日木曜日、子どもたちの思いや意見を「GREEN×EXPO 2027」に生かす機会として、「GREEN×EXPO 2027 子ども参画プログラム スタートミーティング」を開催しました。横浜市立学校では、SDGsの担い手育成（ESD）を継続して推進しており、GREEN×EXPO 2027をこのESDの更なる推進の契機と捉え、各学校が準備段階から積極的に関わっていくことにより、「子どもたちとつくる国際博覧会」の実現を目指しています。今回のミーティングには、市立小学校・中学校・高等学校の児童生徒42人、出展企業などから13人を中心に計143人が参加し、GREEN×EXPO 2027のテーマ「幸せを創る明日の風景」のためにそれぞれの立場で何ができるかなど、積極的に意見交換しました。

「1 当日の流れ」ですが、横浜市立東高等学校代表生徒によるはじめの言葉、山中市長からの激励メッセージの後、参加団体、企業及び学校から自己紹介に代えて、GREEN×EXPO 2027のテーマである「幸せを創る明日の風景」に向けて自分たちはこんなことをしているよという取組状況の紹介をしました。その後、自分たちにとって「幸せを創る明日の風景」とはどんな風景か、「幸せを創る明日の風景」に向けて自分の立場で何ができるか、グループ協議を行いました。

それを受け、「2 振り返り」に記載したとおり、子ども、大人それぞれから振り返りを行いました。子どもからは「人とのつながりが大切」「大人と意見交換する中で、自分でもびっくりする言葉が出てきた」といった言葉が出てきており、大人からは「子どもと大人で課題意識が変わらず、対等に協働できる相手だと認識できた」「子どもの姿を見て、大人である自分のほうが認識や行動を変えなくてはと気付いた」といった感想が聞かれました。

裏面にまいりまして「3 講評」ですが、長らく本市のESDに御支援をいただいている東京都市大学の佐藤真久教授からも、「自分だけではできない課題解決に向け、他者との関わりで大きな力を作ることが、これからの社会でとても重要になる」「共創は『課題解決』だけでなく『価値共創』も重要。GREEN×EXPO

2027やその10年先を見据えて、自分たちが何を解決し、新しく何を生み出したいのかを考えてほしい」「それに向け、世代を超え、領域を超え、多くの仲間を作ってほしい」といったコメントを頂きました。

これまで各学校がSDGsについて進めてきた学びとGREEN×EXPO 2027を結びつける意味で、また、その子どもたちの姿を大人たちに知ってもらう意味で、一定の成果ができたものと考えています。

今後は更に広く学校や出展企業との連携・協働に向けた出合いの場の設定や、子どもたちと出展企業によるワークショップ等を開催する予定です。GREEN×EXPO 2027、会場を訪れた子どもたちが連携・協働の成果を実感できるよう取組を進めてまいります。御説明は以上です。よろしくお願いいたします。

下田教育長

説明が終わりましたので、御質問があればお願いします。

綿引委員

ありがとうございます。この「GREEN×EXPO 2027」に子どもたちが参画して、スタートミーティングの主体として意見・考え方を発表していく場を作るとするのは、ものすごく画期的なことですし、子どもたちにとっても社会から期待されている、自分たちが担っているというのを実感させる素晴らしい取組だと思います。ですので、2027年のGREEN×EXPOに向けて、そしてGREEN×EXPO 2027が終わった後も、この活動を継続的に発展させる方法をぜひ考えていただきたいと思うのが1点でございます。

それから、先ほどお話しいただきました講評の佐藤教授のお話にもございましたが、次期学習指導要領の中に「ウェルビーイング」という言葉がたくさん出てきます。日本人は「ウェルビーイング」という言葉をうまく日本語に訳す言葉を持っていないわけです。その意味で、先ほどの佐藤教授のコメントも、現場の教員の方々にもこの子どもたちの意見を共有してもらって、次期学習指導要領におけるウェルビーイングの進め方の大いなる参考になるのではないかと思います。そのくらい意味のあるディスカッションをしていると思うので、教育委員会事務局全体でも考えていただければ良いと思います。単なるイベントに終わらせないということをぜひお願いしたいと思います。以上でございます。

下田教育長

ほかにごありますか。

緒方委員

私も今回のこの取組を読ませていただいて、非常に有意義な取組であると思います。資料に書いてあるように、今日的な課題ですね。それを大人、企業、そして子どもたちが一緒に議論していくことによって、子どもたちはこれから自分たちの未来を作っていく。大人たちは、逆に子どもたちの自由な発想から得るものもたくさんあると思います。ですから、このような取組は、私は有意義だと思っています。あともう一つは、この社会とつながるような取組も学校経営支援課としてたくさん打ち出して行って、人数で言いますと児童生徒は42人という参加で、これは少ないのかなと一見見えそうですが、このような取組をたくさん取り組んでいくことによって、それを学校にまた持ち帰って広めていくというようなこともありますので、「はまっ子未来カンパニープロジェクト」など、社会とつながる取組をこれからたくさん企画、そして実践していけたら良いなと思いました。

森委員

御報告ありがとうございます。私が思うことは、三つあります。一つ目は、私もとても大事な子ども参画プログラムだと思っていて、だからこそ更に期待した

くなってしまうところがあるのですが、少し曖昧に終わりやすいです。テーマが結構大きいので、子どもたちもテーマをどう具体的に自分に引き寄せて話すかということ、子どもたちもですし、大人たちもすごく難しいので、具体的に落としやすくなるようなヒント出しのようなものが大事なのかなと思っています。例えばですが、一つとして「幸せを創る明日の風景」ですが、幸せって何か。先ほどの綿引委員の話もありますが、私とあなたでそれが同じときもあれば違うときもある。具体的に落としていったときに、私もあなたも、若しくはコミュニティとして、その幸せをどう考えていけるのか、創っていけるのかということまで議論が深まるようなテーマの深め方を補助するようなヒント出しというようなことも行っていくと、むしろこれからもっと各現場で行っていくと思いますので、より深まるのかなと思いました。

二つ目は、裏面にあった共創ということについてですが、「共創は『課題解決』だけでなく『価値共創』も重要」ということで、私もそこは非常に共感しているところです。共創と考えたときに、共創の目的が大事だと思います。異なる人たちが何かを中心に置いて一緒に考える、その共通の目的が大事だと思いますが、今これにおける共創をするときに共通の目的は何なのかなというのが、もしかしたら人によってちぐはぐになりかねないなとも思いました。人によっては国際博覧会をと思うかもしれないですし、もっと大きな未来の遠くの話かもしれないし、具体的話かもしれないですし、共創の目的というのは何なのかといったときに、教育委員会事務局として共創を行うにあたっては、そこをもう少し明文化しても良いのかなと思いました。例えば教育委員会事務局の、「横浜教育ビジョン2030」だとしたら、「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」で、未来を創っていくというようなことが結構言葉として具体になってきていると思いますが、教育委員会事務局として共創ということ考えたときに、それはどういう言葉なのか、どういう幸せなのかということをも明文化することによって、いろいろな人が共創しやすくなるのかなと思いました。

最後ですが、どうアプローチするかということの整理ももう少しできていくと良いのかなと思います。そうすることで、現在の教育委員会事務局が取り組んでいることとのひもづけもしやすくなるのかなと思いました。これまでもいろいろなこういったプログラムが、似たようなこと、近いものもあると思います。「はまっ子未来カンパニープロジェクト」であったりいろいろな取組があると思いますが、一つは、例えば作って発表する。ものづくりやサービス、新しいものを生み出していくことが一つ。もう一つは、何か物やサービスなど目に見える成果にはならないですが、すごく深めて研究していくこともあったと思います。あとは広める。私たちはこのように考えていると伝えていく。広く伝えてその輪を広げていく、そういったアプローチがあったと思っていて、それぞれの動き方によって必要な人の力や街の人のいろいろなアイデアなど共創する相手も変わってくると思うので、今回、じゃあ私は何ができるかなと皆さん、子どもたちも考えていくときに、そのアプローチのバリエーションと組める相手のバリエーションが横浜市には豊かにあるので、そこをこれまでの知見を集約して、ほかの既存のプログラムともうまくつなげながら、ぜひ取り組んでいただければと思いました。

大事にしておきたいというのは、どうしてもかっこいい場がGREEN×EXPO 2027のところにあるからこそ、発表に力を入れやすいですが、恐らく、教育委員会事務局として大事なのは、いかに派手な発表をするかではなくて、そこで子どもたちは何で葛藤して、何がうまくいかなかった、どんな発見が子どもたち自身にあったのかが大事だと思うので、そこは落とさずに、どうぞプロセスの設計をお願いしたいなと思いました。以上です。

多賀谷学校経営支援課グローバルデザイン担当課長	ありがとうございます。様々御示唆いただいたと思いますが、特に取組の広がりというところについてと既存の取組とのマッチングというのについて、私たちもすごく仕掛けていきたいと考えておりまして、はまっ子未来カンパニープロジェクトやその他の取組でもGREEN×EXPO 2027と絡めて取り組んでいくことで、子どもたち自身にもこれまでの取組が全部E S Dで、それでS D G sのその先に向けたものだということが意識できるような形にというのはすごく大切にしていきたいと考えています。 また、共通の目的というようなお話もいただきましたが、実はこの企画を進めていく中で様々な主体、企業や、出席した他局とも、「結局、GREEN×EXPO 2027でどのような企画をしてほしいか発表するの？」というような質問があったりして、それに対して、「そういうことではなくて、そのテーマについて深掘りして考えていく子どもたちの意見を聞くんですよ」と、コミュニケーションを図る中で、まさに大人たちがまず、「私たちは何のためにそもそもこういったプログラムをしていて、何のためにGREEN×EXPO 2027の先を見据えているのか」ということの価値の共有ができたかなと思っています。その姿を子どもたちに見せていくことで、子どもたちから学び、私たちもそのテーマ、共通目的というものをよりブラッシュアップしていきたいと考えています。ありがとうございます。
下田教育長	ほかにございますか。
植木委員	すごくすてきな企画をしていただいたと思っております。子どもたちは自分たちが住んでいる横浜市中で開かれる「子どもたちとつくる国際博覧会」にどうしたら自分たちが関われるのかというのをしっかりと考えて、そして、それを大人たちが真剣に聞いて、こういうことができるというのを実体験としてできていく、楽しく、「子どもたちとつくる国際博覧会」自体もわくわくとした気持ちで待てるようになる、そういったプログラムになるだろうと思っております。 ただ、もうあと2年で「GREEN×EXPO 2027」自体は来てしまいますので、その間、今回42人の子どもたちがということで多い少ないという話はあるかと思いますが、より多くの子どもたちが気軽に参加ができて、いろいろなことで自分たちが意見を言うようになるかというのを実体験できるようにしていただければと思います。そのときには、横浜市中で一括で1か所で開催するというのももちろん必要だと思いますが、それぞれの学校で、そして、各地域とも一緒になっていろいろな企画を考えていただく。そういった企画になっていくと良いなと思っております。 今回はスタートミーティングという名前ですので、どこを目指していくのか、それをどのように広げていくのか、これからも御検討されると思いますので、期待しております。どうぞよろしくお願いいたします。
下田教育長	ほかにございますか。よろしいですか。 それでは、ほかに御質問等がなければ、次に「横浜国立大学との連携協定締結式の開催について」、所管課から報告いたします。
丹羽学校教育部長	学校教育部長の丹羽でございます。このたび、横浜国立大学と共同研究のための連携協定を締結しましたので、御報告いたします。説明は学校経営支援課教育イノベーション担当課長が行います。
加藤学校経営	学校経営支援課教育イノベーション担当課長の加藤でございます。それでは、

支援課教育イ
ノベーション
担当課長

令和7年6月6日に行われました、「横浜国立大学と新たな時代に向けた学びに関する共同研究のための連携協定の締結式」について、御報告いたします。

このたび、横浜市教育委員会と横浜国立大学は、教職を目指す学生が学校現場で働く価値を見いだすとともに、学校教育の魅力を感じてもらえるように、GIGAスクール構想によるデジタル学習基盤を有効に活用した新たな時代にふさわしい学びの開発・実証及び教育課題の解決を目指して、共同研究のための連携協定を締結しました。

リード文の下にある「連携協定のイメージ」図を御覧になってください。教職の魅力の向上を図る相互連携・共同研究の内容といたしましては、附属学校と市立学校での実践研究、学生への横浜市の最先端の取組や指導方法の共有、横浜国立大学の有識者からの指導や助言、教育実習カリキュラムの工夫改善に向けた検討などを考えております。

連携協定締結式については、下段の開催報告を御覧になってください。「1 日時」は令和7年6月6日金曜日、「2 会場」については横浜国立大学教育文化ホールで行われました。「3 主な出席者」としては、(1)横浜国立大学からは、梅原学長、泉理事をはじめ、附属横浜小学校・中学校・特別支援学校の校長、教職志望または教職に興味のある学生が参加しました。(2)横浜市教育委員会からは、下田教育長、石川教育次長をはじめとし、学校や教育委員会事務局の関係者が参加しております。

「4 当日の日程」としましては、連携協定締結式に先立ち、学生向けに横浜市の市立学校で使われている学習ダッシュボード「横浜 Study Navi」やバーチャル空間（メタバース）の体験が行われました。続いて連携協定締結式を行い、その後、下田教育長、横浜国立大学学生、市立学校教員によるパネルディスカッション、また、学生、市立学校教員によるグループワークも行われました。

「5 当日の様子」についてです。裏面を御覧になってください。先ほど報告させていただきました「学びの体験会」、「連携協定締結式」、「パネルディスカッション」、「グループワーク」の様子を画像とともに掲載しております。参加した教員や学生から、下田教育長の「教員を志したきっかけは?」「教育の未来について思うことは?」といった問いかけに対して、「子どもと一緒に学んでいける教師になりたい」「つながりが、これからの教育に大切になってくると思う」という声を聞くことができました。また、横浜の教育の未来について語り合う場面では、「デジタル学習基盤を活用した様々な学び方について話ができた」「GIGA端末を活用した学習を大学でも学んでみたい」といった感想を得ております。以上、報告となります。

下田教育長

説明が終わりましたので、御質問等があればお願いします。

緒方委員

先日、連携協定締結式に私も参加させていただきました。私が思ったのは、パネルディスカッションで下田教育長と学生が話しているのを聞いて、学生たちが教員を目指す動機は何かといった問いかけに実体験が多かったというので、私は日頃の教育をしっかりとしていかなければいけないと再認識したわけです。それと同時にまた、GIGAスクール構想の目指すものは何かというのを、その具体物を見たり、そしてパネルディスカッションでいろいろと話し合われる中で、これからの社会の中では必要不可欠なものであると思います。GIGAスクール構想をどう進めるかということについての共同研究ということになって、学生たちからもそういう声が聞こえたのですが、これは今がスタート地点ですよ。これから実際に連携協定を意味あるものにしていくためには何をどうしていくかと

いう、その目的をシャープにしていけないと、連携はしたけれども何となく研究が進んでいますということにならないように、何を目的にするのかというその目的をもう少しシャープにしていかれると良いのかなと思いました。この取組は、大学連携では横浜市の持っている大きなデータを基にそれを分析し、そして生かしていくという面から考えましてもなかなかできないことだと思うので、この機会をぜひ生かして良い取組にしていいただけたらなと思いました。

下田教育長

ほかに御意見はございますか。

泉委員

まずは、連携協定締結式を無事に終えることができましたこと、御関係の皆様 に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。こちらの資料の写真にもありますように、当日は多くの教職志望の学生たちが参加させていただきました。そして、「横浜 St☆dy Navi」やバーチャル空間を実際に体験させていただきましてとても大きな刺激になったようで、学生の具体的な感想にもありましたが、「こんなに進んでいるとは思っていなかった」というような意見もたくさん聞かれました。また、学生たちに行ってみますと、数年後に出ていくであろう未来の教育現場を具体的にイメージすることができたことがとても大きな刺激になったという意見もあったと思います。そして、グループワークでは、現職の先生方と非常にフラットに対話させていただきまして、これも勇気付けられたというような意見も聞かれました。

一方で、横浜国立大学としての影響としましては、思いがけず大学内の若い教員たちが連携協定締結式、また、学びの体験会から全て参加しておりまして、大学がこれから行う教員養成の在り方、カリキュラムの在り方も含めまして、これから変えるべきこと、また、変えてはいけないことがあるということの認識化につながったと感じています。

先ほど緒方委員からもありましたように、これがスタート地点であって、今後どのように具体的に双方が協働してこれからの良い教育の在り方を考えていけるか、具体的なことを進めてまいりたいと思っております。よろしく願いいたします。以上です。

下田教育長

ほかにございますか。

森委員

御報告ありがとうございます。非常に大事な連携だと思うところです。そこで二つ御質問があります。まず、コメントをお伝えしますので、御質問にはその後お答えいただければと思います。資料の「連携協定のイメージ」に目的が書いてあって、「デジタル学習基盤を有効に活用した新たな時代に向けた学びの開発」ということで、このデジタル学習基盤を指している範囲というのは、この共同研究において、この連携協定においてはどこからどこまででしょうかということ です。「横浜 St☆dy Navi」とバーチャル空間だけなのか、それより更に広い範囲を指しているのかというのが一つ目の質問です。

二つ目の質問は、新たな時代に向けた学びの開発ということを一番の目的としていると思いますので、今回の横浜国立大学の皆さんと連携協定を結ぶにあたって、それをどのような定義でスタートされたのだろうかということをお聞きしたいと思いました。もちろんこれからそれも含めて深めていきますということなのかもしれませんが、現時点の御見解ですね。キーワードだけでも少し頂けるとありがたいなと思いました。

資料を読みながらすぐ思った、一般市民感覚的なところになりますが、連携

協定が進んで、共同研究が進むことで、子どもたちの学びはどのように変わっていくだろうというのをイメージしながら聞いていました。子どもたちの学びがすごくわくわくするものになったら良いなというのが一つと、もう一つは、常にわくわくし続けることは大人も子どもも難しいじゃないですか。どうしてもわくわくできないときに、どのようにこの研究の成果、若しくはデジタル学習基盤が役立っていくのかなど、人の役割がどのように変わっていくのかという、わくわくすると同時に、できないときの役割のようなことというのを少しイメージしながら資料を読んでいました。学びでどのようにわくわくするだろうかというところを考えていったときに、知りたいことに出会えていくことで、デジタル学習基盤を活用した先に人がいろいろ関わって、どのように学びが変わっていくのだろうかということや、子どもたちの自分に合った学び方や選択肢はどのようにデジタル学習基盤によって幅が広がるのか、より知れるのか、選べるようになるのかということにもとても関心があります。

最後に、「横浜 St☆dy Navi」なども何回か見させてもらいましたが、自分のSOSをキャッチしやすいなど、いくつか役割があると思いますが、これから更に期待することとしては、「横浜 St☆dy Navi」を通して自分の存在が本当に大切にされているということを実感できたり、SOSに気付いてもらえるような入り口となるものでもありつつ、教職員がすごく見ていらっしやると思うので、引き続き「横浜 St☆dy Navi」の見取りが更にしやすくなるようなものになっていくと良いなと思います。あと、いろいろな特性のある子どもたちもいると思いますので、その子たちが自分に合った学び方をできるようなことにどう役立っていくのかということは、ぜひこの共同研究で更に深まってくると良いなというのも最後に期待としてお伝えしたいと思います。以上です。

加藤学校経営
支援課教育イ
ノベーション
担当課長

ありがとうございます。森委員のおっしゃるとおり、皆様からも御意見がありました。これから共同研究が始まっていくという中で、ここに示させていただいたことだけではなくて、具体的なところはこれから横浜国立大学とともに考えていくところかなと思っています。デジタル学習基盤、私たちは「横浜 St☆dy Navi」という学習ダッシュボードも今活用しているところですが、そういった改善・改修等も子どもたちの声を聞きながら、また、教職員の声を聞きながら改修に務めていくところかなと思いますが、今後、データも上がってきますので、横浜国立大学とともにこういった形が良いのかということも含めて検討していきたいと思っています。

ここでは、今回は「横浜 St☆dy Navi」に触れてもらったり、バーチャル空間を体験してもらったりということがあったと思いますが、それだけではなくて、子どもたちの状況をしっかり把握できるようにするためのものでありますし、今の目の前の子どもたちにとってどういった学びが必要になっているかというのを把握できる機能になっておりますので、どういった支援を届けるのかと教職員が考えられるように改善を続けていくことが必要なかなと思っています。そのためにも、子どもたちの声や教職員の声を聞くということは非常に大切になるかと思っていますので、データだけではなくて、教職員と子どもがしっかり向き合って今の状況を把握しながら、そこにデータもしっかり活用していくというような、その支援をすることができる学習ダッシュボードになっていければと思っています。

今回の連携協定の願いとしましては、私たちは教職の魅力を伝えること、それから、より質の高い学びに向けて共同研究を進めて、より良いものにしていくことを狙っておりますので、ぜひ横浜国立大学と連携して、より質の高い教育を目

指していきたいと思っております。

また、わくわくするというところがありますが、まずは子どもたちと向き合っている教員が今の状況を捉えるということは非常に大事になるかと思います。学習ダッシュボードの中でも、子どもたちは自分の状況をしっかり把握できるようになりますので、様々な視点から自分を見つめて、また、教職員は子どもたちの様子を見て、そこに対する的確な支援を行っていきけるような学習ダッシュボードになっていくことを願っておりますので、またこれをしっかり横浜国立大学の知見も得ながら支えていってもらえたら、また、一緒に共同研究をしていければと思っております。

森委員

ということは、デジタル学習基盤は基本的には「横浜 St☆dy Navi」を中心として、「横浜 St☆dy Navi」とバーチャル空間という範囲なののでしょうか。私が理解できなかっただけなのですが。

丹羽学校教育
部長

少し補足させていただきますと、今御指摘のあったデジタル学習基盤は、今横浜市が進めている「学びの三層空間」というものとしっかり合わせていくということです。例えばオンラインやバーチャル空間というリアル以外の二つの空間の活用の中でデジタルがどのように生きていくのか、若しくは活用されていく必要があるのかという意味では、「横浜 St☆dy Navi」だけではなくて、あらゆるデジタル学習基盤と言われているようなものを、更に私たちも研究を重ねて進化していくものを、まさに教育にイノベーションを起こせるようなものをしっかり研究していくという意味も込めまして、今ある「横浜 St☆dy Navi」だけではなくて、今後学習を支えるデジタルが登場したときにはそちらもしっかりと取り入れていきたいというような、そういったことも考えております。その意味で、まさに横浜国立大学の総合大学としてのポテンシャルにも期待させていただいているところでございますので、教職の魅力をしっかりと開発していく、若しくは一緒に考えていただくだけではなくて、総合大学としての知見も教育委員会事務局に御提供いただくことを期待させていただいているところです。

森委員

分かりました。ありがとうございます。これからもかなり幅広に取り組んでいくということが分かりました。新たな学びをどのように横浜国立大学の皆さんと調整して定義付けたのかということは、またぜひ今後更に議論が深まったら教えていただきたいと思います。結構、自己決定と伴走というところが一つ大きなキーワードかなと個人的に思っております。どうぞよろしくお願いします。

綿引委員

ありがとうございます。私は、これは将来に向けてとても意味のある、そしてとても大きなインパクトを与える連携協定だと思っているところであります。横浜市教育委員会事務局のデジタル化に向けたプロジェクトというのは、日本の中でも屈指の教育ログと健康ログをためていくことができるという、最先端の教育委員会事務局の基盤を持っていると思います。10年後、学校現場で中堅として子どもたちを支えていく教員が、今のこの時代からDXをどのように教育の世界に生かしていくのかということを考えられるというのは、10年後は相当、人工知能も教育現場の中に入ってくるでしょうし、その中でも人間教育、心の教育や想像力など、そういったことを育む教員養成をどのように行っていくのかというのを、横浜国立大学にも考えていただけるという。それが現場に行ったときに、格差でそういう若い意欲のある教員が潰されないような学校現場を作っていくという、その連動とサイクルを回すという意味でこれはぜひ進化させてほしいし、横

	浜市の強みにしてほしいなと思います。横浜国立大学という強力な味方がいるので、ぜひ最大限に知見を引き出して取り組んでいただきたいなと、ものすごく期待しております。
植木委員	今回、連携協定を結ぶということで、令和7年6月6日、いろいろな方に御参加いただいて、すごく実りの多い連携協定締結式であったと思っています。特に先ほど泉委員からも、思っていたよりも多くの、特に若手の大学の教員の方が興味を持って参加してくれたということで、今回、連携協定を結ぶということで、学びの体験会やパネルディスカッション、グループワークなどがあったと思うのですが、やはり連携協定で何が進んでいるのかというのを、ある程度のタイミングでしっかりとオープンにしていける必要がある。そのときに、関わっている方、特に横浜国立大学の学生たちは、人がどんどん卒業して入学して替わっていきますので、そういったときにも、こういったグループワークやパネルディスカッションに参加できる機会をこれからも持っていただけるだろうかということの一つ懸念しております。教育課程を経て教員として横浜市立の学校で勤めたいと思っていただける方、あと、実際に教職に就いたときに、学んできたことと現場とのギャップがなるべく少ないようにということになると、こういった連携協定締結式に付随したものではないパネルディスカッションの場を今後も継続して持っていく必要があると思いますが、その辺りについてはいかがでしょうか。
加藤学校経営 支援課教育イ ノベーション 担当課長	ありがとうございます。今回の連携協定締結式の場でもこういったパネルディスカッションが行われまして、対話して改善していきたいことや、こういう希望があるということ、言ってみれば共創の場を体験していただいたような形になるのかなと思っています。これからは横浜教育イノベーション・アカデミアということでオープンな形でも行っていきますし、今回、学びの体験会に参加していた学生たちも、次にまた開催されるときには参加してもらって、より多くの声を聞いていきたいと思っています。ですので、学生たちの声がこれからの教育を作っていくことにもつながりますので、私たち教職員、また、横浜市教育委員会事務局、横浜国立大学が一緒になって、計画されたことや御意見を生かして教育につなげていきたいと思っています。
植木委員	そのときにですが、大学に入ってから教育課程をとという方ばかりではないと思います。ですから、もう少し下の年代の方、中学生や高校生の方にも参加しやすいような内容、そしていろいろな話が聞けるようなということも御検討いただくほうが、教職を目指す人を増やすという点でも良いかと思っているのですが、その辺りはいかがですか。
加藤学校経営 支援課教育イ ノベーション 担当課長	ありがとうございます。今回は大学生が中心でしたが、植木委員のおっしゃるとおり高校生、さらに言えば小学生、中学生から興味を持ってもらえるように、この夏の教育課程研究委員会でも子ども実行委員会を立ち上げて小学校・中学校・高等学校・大学という形で子どもたちの声を届けられるようにと考えておりますので、そういった場でも高校生に中心になってもらいながら一緒に取り組んでいければと思っています。noteなどでも様々発信しているところですが、参加したときの声を届けたいと思っています。
植木委員	ありがとうございます。

下田教育長	それでは、よろしいですか。ほかに御意見がなければ、次に議事日程に従い、請願等審査に移ります。4月30日付で受け付け、各委員に配付しております受理番号4について、審査を行います。事務局から説明をお願いいたします。
田中教育政策統括部長	教育政策統括部長の田中です。それでは、受理番号4の要望書につきまして、考え方を所管課長から御説明いたします。
古瀬総務課長	総務課長の古瀬です。受理番号4の要望書について御説明いたします。要望書は、令和7年4月30日にかながわ市民オンブズマンから提出がありました。 要望項目は、「無記名投票採決は、各教育委員の判断の記載すら作成しないという極めて無責任な採決方法であるため、実施しないでください。」になります。 続いて、考え方について説明いたします。教育委員会会議の採決方法は、横浜市教育委員会会議規則において、挙手、記名投票、無記名投票の中から教育委員会で決定することとしております。採決が必要な場合は、非公開の議案を除き、採決の方法をその都度、教育委員会の公開の場で決定しております。また、教育委員会会議では、議論の中で各委員が観点や考え方を発信し、十分な審議を行った上で採決を実施しております。この結果につきましては、合議体である教育委員会が責任を負うものと考えております。引き続き、市民の皆様に分かりやすい議論となるよう進めてまいります。説明は以上です。よろしくお願いいたします。
下田教育長	説明が終了いたしました。御質問等ございますか。よろしいですか。 ほかに御意見がなければ、受理番号4については、事務局の考え方に沿った回答でよろしいでしょうか。
各委員	<了 承>
下田教育長	それでは、承認させていただきます。回答文につきましては、承認いただいた考え方に沿って回答させていただきます。以上で請願等審査を終了いたします。 次に、議事日程に従い、審議案件に移ります。まず、会議の非公開についてお諮りいたします。教委第8号議案「横浜市国際学生会館指定管理者選定評価委員会委員の任命について」、教委第9号議案「横浜市学校規模適正化等検討委員会委員の任命について」、教委第10号議案「教職員の人事について」は、人事案件のため、非公開としてよろしいでしょうか。
各委員	<了 承>
下田教育長	それでは、教委第8号議案から教委第10号議案は非公開といたします。 以上で公開案件の審議が終了いたしました。事務局から報告をお願いいたします。
古瀬総務課長	次回の教育委員会定例会は、7月18日金曜日の午前10時から開催する予定です。また、次々回の教育委員会定例会は、8月5日火曜日の午後2時から開催する予定です。教科書採択につきましては、この日を予定しております。今年度も、会議を傍聴いただける方を事前抽選いたします。 なお、会場に入れなかった傍聴希望者の皆様につきましては、インターネット

配信により審議の様子を御覧いただけるよう予定しております。事前抽選の応募期間については、6月27日金曜日から7月9日水曜日とし、応募方法につきましてはインターネット及び郵送での申込みを予定しております。事前抽選の詳細につきましては、6月27日にホームページに掲載する予定になっておりますので、御確認ください。以上でございます。

下田教育長

皆様、よろしいでしょうか。次回の教育委員会定例会は、7月18日金曜日の午前10時から開催する予定です。別途、通知いたしますので御確認ください。

次に、非公開案件の審議に移ります。傍聴・報道機関の方は御退席願います。また、関係部長以外の方も退席してください。

<傍聴人及び関係者以外退出>

下田教育長

教委第8号議案「横浜市国際学生会館指定管理者選定評価委員会委員の任命について」

(原案のとおり承認)

教委第9号議案「横浜市学校規模適正化等検討委員会委員の任命について」

(原案のとおり承認)

教委第10号議案「教職員の人事について」、所管課から御説明いたします。

(原案のとおり承認)

下田教育長

本日の案件は以上です。これで、本日の教育委員会定例会を閉会といたします。

[閉会時刻：午前11時10分]